

H-4 多発性骨髄腫ケアマニュアル作成への取り組み

○谷口あゆみ、安達美樹、井原国代

熊本大学医学部附属病院血液内科 西病棟 11 階

【目的】近年、多発性骨髄腫の治療はサリドマイドやボルテゾミブなどによる化学療法目的の入院が主となり患者の QOL は著しく上がった。当部署ではこの状況に応じたケアマニュアルがなかったため、今回骨髄腫の病態、治療、骨折予防プランを中心とした新たなケアマニュアルを作成した。このマニュアルを使用した事例を報告し、今後のケアマニュアルについて検討する。【方法】患者 A 氏 に対して多発性骨髄腫ケアマニュアル・骨折予防プランを中心に看護計画し実施する。【結果】A 氏は胸椎圧迫骨折があり骨折予防プランを使用して日常生活行動の一つ一つに対してケア、教育支援を行った。それと同時に疼痛コントロールも行った。看護師と患者の日常生活に対する考えが統一でき、患者の退院後の生活行動の教育支援に繋がった。【考察】今回作成したケアマニュアルは疾患と治療、看護、特に骨折予防を中心としたマニュアルである。社会復帰することを目標に骨折予防プランを活用し退院時指導へと結びつけ、A 氏のような圧迫骨折がある患者にはこのマニュアルは有効であった。しかし、化学療法を行いながら社会復帰する患者が増えている現在、患者が自己管理していけるような退院時教育支援（化学療法時のルーチンケアや日和見感染予防など）マニュアルの作成も必要である。【結論】1. 骨折がある患者に対して骨折予防プランは有効であった。2. 化学療法が著しく発展してきたため社会復帰を目標とした患者に対応できる化学療法や日和見感染予防の患者教育支援マニュアルが必要である。